

東近江市総合計画審議会 会議録

第2回 東近江市総合計画審議会		
日時	平成23年3月24日(木) 14:00～16:00	
場所	東近江市役所 3階 3A会議室	
出席者	審議会	稲川会長、今堀副会長、堤委員、小倉委員、井上委員 武藤委員、大林委員、小梶委員、太田委員、野々村委員、川村委員
	市職員	北川企画部長、国領企画部次長、村井企画部次長、篠野企画部次長、 木下行政改革課長、企画課 吉澤、古川、西川
欠席委員	山村委員、北川委員、森田委員	

1. 会長あいさつ

[会長]

只今から、「第2回東近江市総合計画審議会」を開会致します。前回は11月でしたが、本日は第2回の審議会となります。

本日の議題は、アンケート結果について、それから平成21年度から平成22年度にかけて市で取り組んでいる行政改革と緑の分権改革について、これらを総合計画にどう反映していくかを話し合ってください。前回市長から5年後の東近江市の姿を見据えながら検討してほしいという依頼もありましたので、そういう視点から午後4時までご審議をお願いします。

2. 報告説明

[会長]

それでは、早速ですが議事に入りたいと思います。

議事の3件について、まず事務局から説明をいただき、その後一括して皆さんに議論をいただきたいと思います。

(1) アンケート報告について

[事務局]

(資料「東近江市まちづくりアンケート調査結果」の説明)

(2) 地域力の向上について

[企画部次長]

(資料「東近江市が目指す地域力の向上について」の説明)

(3) 行政改革について

[行政改革課長]

(関連広報資料の説明)

3. 議論

【会長】

これから人口が減少していきます。生産年齢人口も減少し、高齢者が増加します。そういう中で高齢者も地域の中で役割を担っていく、障害者も役割を担っていくという社会のあり方が求められてくると思います。そういうことを前提としたご報告だったように思います。それではただいまのご説明に対して、フリーディスカッションということでお願いします。

【委員】

アンケート報告はこのまま出すのでしょうか。分布図という形がどうだろうかと思っています。

【事務局】

新たな試みとして目に訴えるように作りました。これから公表していく際、どうしたら良いかについてもご意見をいただければと思います。

【委員】

「満足」や「不満」の数が少なく、「普通」が最も多いわけです。それをこのような分布図にすると意味合いが変わってくるような気がします。

【会長】

検討しましょう。

【委員】

私は分布図は面白いと思いました。見やすかったです。市民の評価であり、ニーズでもあります。しかし、一方、専門職すなわち行政が判断する重要性があると思います。その辺が出ると思います。

【事務局】

いま専門部会で5年間の取り組みの成果を点検中です。その結果とプラスすれば良いのかなと思っています。

【会長】

審議会と専門部会の両方の作業がうまくすり合わせられれば良いと思います。

【委員】

アンケートに同封したリーフレットの中で扶助費が平成21年度から平成24年度に増え、国庫支出金が減少しているのはなぜですか。

【事務局】

国庫支出金は投資的経費と連動していますし、扶助費は生活保護や高齢者福祉、子ども手当などの影響だろうと思います。

【委員】

国の制度設計を待つ必要があると思います。市民や市の努力だけではどうにもならないと思います。ところでアンケートの母数は十分な数なのでしょうか。

【事務局】

そうです。

【委員】

民間のマーケットリサーチでは、アンケートだけでは売れる商品はつくれません。専門部会と意見交換できる機会が是非ほしいですね。

【会長】

そうすれば市職員もステップアップする、市民の理解やパワーも強まる。関わるのなら、とことん関わらせてほしいという気がしますね。

【事務局】

市長も市民と一緒に総合計画を作ると言っていますので、そのような機会を計画していきます。

【事務局】

先程の質問ですが、国庫支出金が大きかったのは経済対策の関係で国から14億円の支出金があったからです。また、17億円の定額給付金があって、支出としては「その他」にこの17億円が含まれています。

【会長】

平成24年度が自然体ということですね。

【委員】

満足度の低いもの、例えば道路・交通についても、見守りや買物難民などとのつながりがありますし、これから中身を分析していく必要があると思います。そのためにも専門部会と合同で検討をしていくと良いと思います。

【会長】

行革委員会の場合はどうのような進め方だったのですか。

【副会長】

一つひとつ市から位置づけや意義、現状について説明され、みんなで評価し、結論を出していきました。

【会長】

審議会の皆さんは色々な分野で活躍されている方々です。その能力を最大限発揮するためにも行政からのインプットが必要ですね。ぜひ、そのような場を設けていくことを望みます。

地域力の向上や緑の分権改革の方向性を押し出すことについても、そのような場で話し合えれば、節電した電力の使い道も地域で使えることがあるでしょうし、間伐に色々な人が参加し収入を得て地域で廻るような展開が可能になると思います。

【委員】

アンケートの中で、病院の問題は住民全員が対象になるでしょうが、高齢者福祉に関することは今の高齢者が対象となるでしょう。そうすると対象者が限定されてくると思います。

【委員】

6頁の回答者の属性を見ると、選挙の投票と同じような傾向ですね。

【委員】

無回答も一定の意味があると思いますので、ポイント化の計算から除くべきではないのではないのでしょうか。

また、市民は危機感がまだ薄いなと感じました。行革について、いまだに事務の効率化が上位にきています。

【副会長】

私もそう思います。財政見通しを記載したリーフレットを同封し、人件費の削減を示しているのにね。市民は痛みを耐えようというよりも、行政へツケを回そうとしているような面があると思います。そこを計画の中でどうするのか、知恵の出どころだろうと思います。

地域力の向上に関しても、自分のことととらえている市民は5割に満たないと思います。現行の計画に「市民の取り組み」という記載がありますが、これらがどう実行されたのか点検する必要があると思います。また、かなり特定される取り組みが紹介されていますが、後期計画ではもっと裾野を広くすることも必要だと思います。

【事務局】

行政では現在施策に関する点検を進めていますが、いまご指摘いただいた「市民の取り組み」についての精査も必要だと考えます。協働という観点からもその辺は重要なことだと思いますので、精査し議論していただく必要があると思います。

【会長】

東日本大震災における節電についても一人ひとりの努力でおさまっています。この一人ひとりの努力が重要なことで、8割の人が実行することで有効だといわれています。市民が危機感を共有することが必要です。

【委員】

実は、同封リーフレットのことで議員に「こんなことで何が書けるのか」と叱られました。言い換えれば、それだけリーフレットは効果的だったということだと思います。

【委員】

「住みやすい」という場合、市民はどこをイメージしているのでしょうか。「働く場が少ない」という意見もありますが、東近江市は県内では多いほうだと思うのですが。

【委員】

医療の件にしても、回答者に高齢者が多いという年齢の問題が影響していると思います。

【委員】

問7の3の中の介護について、私たちとしては頑張っているつもりなのですが、満足度はそれほど高くない。年齢とクロスしてみる必要があると思います。

【事務局】

今までのアンケートは希望を聞くばかりでしたが、今後、例えば三年後などに再度実施して変化を見ることができると思います。

【委員】

行政としては、ここがニードだという具合に、ごりっと掴まないといけないと思います。専門部会に期待します。

【委員】

32頁の「補助金を見直す」というのは、市民はどういう意味でとらえているのでしょうか。

【委員】

補助金を使っている人は、いらぬとは思わないでしょう。そのような市民とどう関係しているかということが影響していると思います。

【委員】

補助金を下げるという意味だと思います。補助金というイメージとして、審査の対象だというイメージがあると思います。

【委員】

まちづくり協議会の方々などと話ししていると「補助金下がってきて大変だね」とよく聞きます。疑問を感じます。

【委員】

もらっている人は「もらえてラッキー」と思っているでしょうし、もらえなかった団体は「ずるい」と思っているようなところがあると思います。その辺ではないでしょうか。

【委員】

私たちとしては議論に前向きに関わろうと思っています。しかし、会議の形が対峙している感じがして、これで良いのかと思います。それに1時間もの説明を受けるとしんどいです。

【委員】

災害後、業界としてはものが入ってこない状況にあります。人口減少という見込みの中で、被災地の子どもを受け入れるようなことも検討できるのかなと考えています。ただ、ここで平凡な話ができることの幸せを感じています。

【委員】

補助金をもらっていても、減っている現実があります。補助金の少ない団体でもできる事業もあります。団体としても補助金を有効活用していくことが大事だと思います。

【会長】

アンケート結果について年齢別のクロスをみる必要がありそうですね。施策の重要度にしても、関わりのある人が多い、少ないということが影響していると思います。クロス等の提案があれば私、あるいは事務局までご連絡いただければと思います。

また、市では春に市民フォーラムを予定されていますが、市だけでは良い企画はむずかしい。我々も一緒に企画したらどうかと思います。厳しい状況を共有した上で、前向きの計画にしていくことが必要です。

【事務局】

市民参加はアンケートだけでは考えていません。行政だけでは打開できないと考えていますので、フォーラム等も含めて、皆さんの知恵を出し合ってもらえるよう、よろしくお願いいたします。

4. 閉会

【会長】

長時間お疲れさまでした。これをもちまして第2回東近江市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。